

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470700754
法人名	西野苑 有限会社
事業所名	グループホーム 木もれび
所在地 (電話番号)	松阪市西野町457-3 (電話) 0598-58-3630
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成17年6月11日(月)

【情報提供票より】 (H19年5月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11人, 非常勤 1人, 常勤換算	12.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円~
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要(5 月 25 日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野呂医院 大井循環器内科 阪口歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農家集落に隣接して、山並と田園風景に季節を感じる長閑な所に位置している。建物の構造、間取りとも暮らしを重視した純木造2階建て2ユニットのグループホームである。自作農園、温室、駐車場、運動広場を確保するなど敷地面積にも恵まれ利用者のために有益に活用をしている。時には廊下伝いのデイサービス利用者との交流機会も持っている。職員は開設来3年の実績、経験と「利用者本位の暮らしを支える」意味合いの理念を共有しながら介護、支援に熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題「預かり金管理と家族への報告について」は改善されていた。「介護計画の見直し」については引続き努力が望まれる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者及び職員は評価の意義目的をよく理解しており、今回の自己評価も全員で検討しサービスの質の向上に繋げる努力をしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2地区の自治会長始め地域主要メンバー、行政関係者の参加を得て、先月(5月30日)第1回目の会議を開催した。ホームの紹介、今後の会議のあり方、2ヵ月毎の開催についての意見交換をした。地域の理解や支援、情報提供の貴重な機会として益々の充実化と効果が期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情のない事は結構な事であるが、意見の引き出し苦情の吸い上げ方法が充分かを一度見直してほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営者は地域との関係作りの重要性を認識している。ホームも自治会に加入し催しにも責任者が参加するようにしている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念がきめ細かく文書化され室内に掲げられている。ただ地域密着型サービスとしての意味合いが含まれていない。	○	制度改正に伴い地域密着型の意義を含めた理念へ作り変えを検討している。この機会に全体を要約し地域密着型の内容を加え地域住民、本人・家族、職員にも分かり易いものにすることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は機会ある毎に理念を確認し共有、日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、自治会、老人会総会、草刈などの地域活動には責任者が参加している。またホーム主催の盆踊り等イベントへ地域住民に参加を呼びかけるなど交流に努めている。	○	現在、参加呼びかけ地域を広めていく方向で検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で改善に向け検討しながら実施した。外部評価の意義や目的についても全職員がよく理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先月(5月30日)に自治会長、老人会長、民生委員、地域実行組合長、市介護保険課、地域包括支援センター、施設・ホーム側役員にて第1回運営推進会議を実施した。ただ今回は利用者、家族の参加は得ていなかった。	○	今回は初回でありホームの紹介、今後の運営推進会議のあり方の説明、2ヶ月毎の開催等について意見交換が行われた。利用者が地域でその人らしく暮らしていくために地域の理解や支援、情報提供の貴重な機会であり益々の充実化と効果を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町とは副施設長を窓口として折に触れ事業所全体の状況報告をすると共に情報の入手に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に職員から状況報告をしている。また毎月ホーム便り(木もれび通信)を発行して催し風景、暮らしの写真、連絡事項等を掲載し郵送している。健康異変など緊急時は電話で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、声かけをして意見、苦情を聞きだすように努めている。玄関にご意見箱を設置しているが、これまでに投函はない。意見、苦情は職員全員で検討して改善に努めているとのことだが事例及び検討記録は拝見できなかった。	○	家族アンケートにはホーム及び職員に感謝、満足的なものが多い。ただ、その中にも大なり小なり意見や要望があるように思われる。サービスの質の向上に繋げるためにも家族と出来るだけ意思の疎通をはかり意見の引き出しと吸い上げ方法に工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動による利用者への影響を充分承知していて最小限にとどめている。やむをえない時には本人、家族に説明し出来るだけ影響の無いように気配りをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ多く職員が研修に参加できるよう、必要に応じ勤務調整をしている。研修レポートは全員に回覧し内容の周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に参加して情報交換など交流をはかっている。地域の施設開設に伴う実習生の受け入れを行った。また職員の中には個人的に同業者職員との交流を通じサービスの質の向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用契約以前から本人や家族に事業所を見学して馴染んで貰う事から始めている。すぐ入居となる場合は入居後暫らくの間、家族に来て貰うなど安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や得意分野を把握しており、尊厳を重視しながら、場面作りと教わる態度でやさしく支援している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや希望を把握することに努めメモをしておき活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を基に職員同士で検討、意見交換を行なったうえで計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化や要望に応じて見直しを行っているが期間をきめての定期的な見直しはしていない。	○	今後は状態の変化が無い場合も定期的な見直しをしていくとのことである。これまでの計画が的確か否かの視点で最新の状況や気付きと家族の意見の集約を行うなど、変化を感知しようとする意識が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在入居利用者は15名。空室を利用しての短期入所の受け入れ体制はできている。(外泊、墓参り等の外出は家族に委ねている。)	○	利用者と家族が安心して暮らし続けていくために必要な多様な支援・機能を事業所としていかに提供していくか模索しながら支援することは大切である。今一度個別ケア(特別な外出の支援)の取り組みを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重して主治医をきめている。現在は全員ホームの契約協力医に委ね、毎週1回(各ユニット隔週交互に)往診を受け健康面での気配りをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者にも家族及び主治医との相談のうえ出来るだけの支援に努めているがターミナルまでの対応は現在のところ考えていない。本人・家族の希望があれば、協力主治医の元勤務先である総合病院への移行体制は確立している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の権利、プライドにも気配りをしながら穏やかな支援をしている。また個人情報の保護に関しても全職員に周知し実行している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々利用者との会話の中で本人が行きたい所、食べたいもの、やってみたい事などを聞き出し、メモ(気付きシート)をしておき出来るだけ希望を叶えその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設通所介護施設にあるテナント業者の給食で対応している。盛り付け、配膳、後片付けは、利用者が行い職員はさりげなく支援している。	○	時には利用者の希望、嗜好を取り入れ、食材の買出し、食事を一緒に作るなどを職員間で話し合い企画している。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により月水金組、火木土組に(月曜日は自由)組まれている。公平を期すため日ごとに入浴順番と入浴結果を記録し清潔面でも気配りをしている。ただ時間帯を(14時から16時)きめている。	○	入浴日、入浴頻度、入浴時間帯など、一人ひとりの希望に応じた支援になっているか今一度確認と工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、後片付け、洗濯物たたみ、シーツの取り替え、畑で野菜の手入れ・草取りなどを行っている。職員は利用者一人ひとりの生活歴や能力をもとに場面作りと、さりげない支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は屋外ベンチで日向ぼっこをしたり、畑や温室で野菜や草花の手入れ、周辺への散歩、時には花見、足湯、スーパーへの買い物等利用者の希望に添った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初から地元との協議により玄関は鍵をかけている。また入浴時などフローア職員が手薄になる時には通用口も施錠している。居室は施錠することはない。	○	運営者及び職員が鍵をかけることの弊害を今一度省みて工夫が求められる。運営推進会議を通じるなど利用者が地域でその人らしく暮らしていくためにも地域の理解と支えが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署の協力を得て防災避難訓練を行なっている。地元消防団にも協力依頼をしていると同時に手薄になる夜間の対応にも職員間で定期的に確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設長は管理栄養士であり、定期的に質、量等の確認をしている。利用者ごとに毎食の摂取量を記録しながら注意を払っている。水分補給にも気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光、通風ともによく、畳コーナー、居間兼食堂もゆったりとしている。室内は家庭的な生活用品が置かれ、季節の草花を飾り、ほどよくBGMもながし居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の使い慣れた馴染みの物を持ち込み、壁に絵や写真、洗面台には草花を生けるなど、それぞれ工夫した落ち着いた過ごせる場所になっている。		